



COOP SAPPORO CSR REPORT 2016

コープさっぽろCSRレポート2016



コープさっぽろ 秘書室
札幌市西区発寒11条5丁目10-1 〒063-8501
TEL.011-671-5602
<http://www.coop-sapporo.or.jp>



編集方針

コープさっぽろは、2005年から「環境・社会貢献報告書」の発行を始めました。2007年からはコープさっぽろの社会的責任(Corporate Social Responsibility: CSR)の視点から活動を報告する「CSRレポート」にあらため、多様なステークホルダーの皆さまの関心に応える情報開示に努めてきました。

コープさっぽろのCSR活動は、「事業」と「組合員活動」の両面から成り立っています。報告にあたっては、コープさっぽろの基本姿勢に則して推進している日々の活動の方針や内容を、その進捗状況とともに報告することを基本としています。持続可能な社会の実現に向けて、コープさっぽろが果たすべき役割は何か、そしてどのような取組を行っているのか、活動の一部ではありますが皆さまにお伝えできれば幸いです。

●報告対象期間

2015年度の主な活動を中心にまとめていますが、補足的に当該年度以前の情報、2016年度以降の継続的な活動や将来の目標も報告しています。また、事業概要は2016年3月20日現在のものです。

●ホームページでの情報公開について

コープさっぽろでは、情報の開示にあたり、本レポートのほかにホームページを活用しています。ホームページには本レポートの記載内容に加え、2015年度事業報告、損益状況などのより詳細な情報を掲載しています。(当該情報に関するホームページの公開は、2016年6月を予定しています)

CSRレポート掲載URL

[http:// www.coop-sapporo.or.jp](http://www.coop-sapporo.or.jp)

●発行年月および次回発行予定

2016年5月発行。
次回は2017年5月の発行を予定しています。

CSRレポートに関するお問合せ先

生活協同組合
コープさっぽろ 秘書室
〒063-8501
札幌市西区発寒11条5丁目10-1
TEL. 011-671-5602

CONTENTS

特集 **安心と革新**
～いっしょに100まで。～ 01

2015年度活動報告

- 人と人をつなぐ事業の輪 10
- 人と食をつなぐ事業の輪 16
- 人と未来をつなぐ事業の輪 20

2015年度環境活動報告

- 環境理念と環境方針 23
- 環境活動トピックス 24
- 環境データ報告 27

コープさっぽろの組織概要

- 基本情報 30
- 組合員動態 31
- 事業所数と形態 32

組合外から寄せられた期待と意見 33



安心と革新

～いっしょに100まで。～

2015年、コープさっぽろは創立から50周年を迎えました。その成り立ちから、私たちの事業は消費者のくらしを守るため、さまざまな「食の安全・安心」を築くために行われてきました。現在、さまざまな社会問題がくらしを取り巻く中、「安心」を守るためには新しい発想や挑戦…「革新」が必要であると私たちは考えます。50年を機に、支えてくださった皆さんとともに100年へ向かって、私たちの新たな決意をお伝えします。





コープさっぽろ 50年のあゆみ

組合員に支えられ、時に紆余曲折を経ながら、暮らしの「安心」をめざした50年。
食、環境、子育て、仲間づくり…さまざまなテーマの取組を振り返ります。

暮らしの安心を守るために設立し 手を取り合って全道組織へ

コープさっぽろは1965年7月18日に、札幌市民生活協同組合として創立、同年10月1日に創業しました。大量生産・大量消費の中でさまざまな社会問題が起こっていた時代に、消費者の手で消費者を守る組織として立ち上がったのです。以後、活動の輪を広げ、全道各地の生協と事業連携・統合を進めました。そして'07年のコープ十勝統合をもって、全道組織となりました。

- 1969年 小樽市民生協と統合
- 1970年 旭川市民生協と統合
- 1978年 中央市民生協、函館市民生協と統合
- 1979年 真駒内団地生協と統合
- 2003年 釧路市民生協と統合、宗谷市民生協と事業提携
- 2005年 宗谷市民生協と統合
- 2006年 道央市民生協・コープどうとと統合
- 2007年 コープ十勝と統合



開業第1号店の大学村店



札幌市民生活協同創立総会



文化教室開始

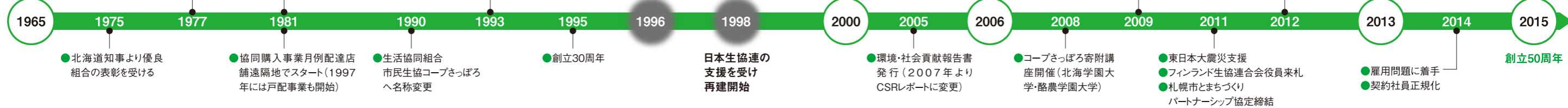
創立(札幌市民生協)

- 7月18日創立総会、10月1日創業開始

- CO・OP共済扱いスタート

- 北海道はまなす食品株式会社設立(2005年よりコープさっぽろの特約子会社化)

経営危機の表面化



東日本大震災支援隊



包括連携協定の協働の一環である「北海道の森を元気にしよう!キャンペーン」

一番に考えたのは食卓の安全・安心。 やがて北海道の食を守る活動へ

暮らしの安心のためには、食の安全・安心は欠かせません。1973年には商品検査室を設置し、国の基準より厳しい自主基準を設けて食品添加物や食品表示をチェックしています。2000年代からは安全・安心への考えを一步進め、「コープさっぽろ農業賞」を中心に消費者と生産者を結ぶ活動、食育活動にも力を注いでいます。

- 1973年 商品検査室設置
- 1997年 「おいしいお店」バージョン店舗改装スタート
- 2000年 「食品衛生法改正を求める国会請願」署名に34万筆を提出
- 2002年 「生鮮食品表示自主基準」運用
- 2003年 「コープさっぽろ農業賞」開始、北海道の「食の安全・安心条例」制定に向けた要望書提出
- 2004年 「加工食品の原料原産地表示自主基準」運用
- 2008年 こだわり北海道100シリーズ販売開始
- 2011年 黄金そだちシリーズ販売開始
- 2012年 畑でレストラン開催、なるほど商品販売開始、食育研究会スタート
- 2013年 アレルゲン商品コーナー化
- 2014年 魚の調理教室開始

経営危機を乗り越え、 より一層組合員のために

急速に事業を拡大し大型店出店を進めた90年代、コープさっぽろはバブル崩壊とともに経営破綻へと追い込まれました。再建の道を歩む中、あらためて私たちの事業は組合員のためであることを確認し、共に歩む活動を充実させていきます。しかし'07年には、食品表示の偽装や農薬入りの商品流通など、食の安全・安心を揺るがす事件が発生。信頼を取り戻すために、トレーサビリティ構築や可能な限りの北海道産のプライベートブランド商品開発へとつなげました。

環境は事業を続ける基本。 合い言葉は「-CO₂OP」

'08年は北海道洞爺湖サミットが行われ、環境についてあらためて考える年となりました。そこで-CO₂のOperationという「-CO₂OP」のスローガンを掲げ、日本初の木造店舗建設や、組合員と共に行う森づくりなど新たな挑戦を続けてきました。さらに'11年の東日本大震災を教訓に、脱原発をめざし再生可能エネルギーへの取組を推し進めています。(P22参照)



協同購入・戸配事業名称を「コープ宅配システムドック」に変更

- 志賀総合食料品店、別海農協、(有)魚長との提携、旭友ストアから事業継承

- 全労済・北海道医療生協・ほくろ福祉協会と事業提携
- 別海乳業興社事業提携
- フリーエタ葬祭スタート

- 大雪水資源保全センター事業開始
- 野口観光株式会社と事業連携協定
- 北海道と包括連携協定締結

助け合える仲間をつくり、 暮らしの安心を確かなものに

生協の基本は助け合いであり、コープさっぽろは組合員同士が手を取り合って仲間を作る「場」でもあります。また、コープさっぽろには社会が抱える問題を解決に導く事業を行う使命もあります。未来を支える子どもたちのための子育て応援、買物難民の解決、雇用問題への取組など、組合員が必要とするあらゆる事業を行い、発展させてきました。

- 1986年 コープ暮らしの助け合いの会開始
- 1989年 財団法人市民生協社会福祉基金設立(2009年公益財団法人認可、現公益財団法人コープさっぽろ社会福祉基金)
- 2006年 子育てひろば・ふれあいサロン開始
- 2010年 コープさっぽろ子育て支援基金設立、えほんがトックスタート、移動販売車スタート
- 2011年 札幌市と高齢者見守り協定締結、配食サービススタート
- 2012年 事業所内託児所開始
- 2013年 全店AED設置、見守りドック開始
- 2014年 北翔大学・NPOと介護予防で連携

50周年を節目に考える 次の50年と「いっしょに100まで。」

北海道は日本の10年先の姿だといわれます。少子高齢化など、日本が抱える諸問題にどこよりも早く直面しているからです。しかしそれは、宅配網を生かした見守り活動、介護予防を行う指導者を派遣し、いわば自治体が協同購入できる仕組みづくりなど、これまでになかった発想があれば、全国に先駆けて解決できる機会を得ているということでもあります。

'15年10月1日で50周年を迎えたコープさっぽろ。この50周年は、次の50年を考えるための節目と捉えました。50年間を支えてくださった皆さまに感謝しつつ、北海道を支え、皆さまと共に100年を迎えるための50年の姿を、私たちは考えます。



気づきメモ

'14年9月21日～

オールコープさっぽろの取組の一つとして、職員が日常の中で学び、気づいたことをメモに書いて提出し、共有する「気づきメモ」を始めました。習慣的に気づきを意識して、自分で考え行動できる人材を育てるほか、組合員視点で物事を考え業務を改善していくことに役立っています。

気づきメモの改善事例

- 試食台に「保護者同伴」のPOP…お子さんの誤飲やアレルギー症状発生などの事故を防ぐ
- 小さめのギフトに使える紙袋導入…多数の要望に応え創業50周年の新ブランドカラーで作成

コープスタンプラリー

'15年4月1日～11月30日

全道各地にコープさっぽろのお店があることをより多くの組合員さんに知っていただくため、スタンプラリーを開催しました。全109店舗のスタンプを集めるとドック親子ぬいぐるみなど、達成度によって5種類の賞品をプレゼントしました。

応募者
846名

(うち全店制覇賞136名)



ラブコープキャンペーン／ラブコープ総選挙

店舗'15年4月22日～5月5日
宅配ドック'15年4月27日～5月1日

組合員が便利さやおいしさを感じる好きなコープ商品に投票することで、まだ商品の魅力を知らない組合員に新しいファンを増やすプロジェクトです。店舗の投票チラシに記入して投票箱に入れるか、宅配ドックの注文用紙から投票を受付。総得票数は42,978票(店舗17,901票、宅配25,077票)を集めました。このキャンペーンは、宅配ドック10周年を迎える'16年度も引き続き実施することになりました。



ありがとうの会&感謝のつどい

'15年5月10日～'16年3月5日

これまで支えていただいた組合員、職員、取引先に、それぞれ感謝のセレモニーを複数回行いました。特に組合員には歴代の総代など、懐かしい思い出を共有できる「コープの同窓会」として感謝の場を設けました。おいしい食事を食べながら、コープさっぽろのあゆみの振り返りやさまざまな出し物などを通し、コープがより好きになる会を心がけました。

組合員
歴代総代さん
ありがとうの会
全12回
1,027名

組合員
共済
感謝のつどい
全9回

組合員
Webモニター
感謝のつどい
全7回
680名

職員・取引先
コープさっぽろ
50周年記念
職員感謝のつどい
45回
6,475名



職員・取引先
生協会祝賀会
全4回
1,185名

感謝をこめて、皆 さんといっしょに。

50周年を迎えてまず考えたことは、支え
そしてそれを、次の50年へと続く第一歩とすること。50

くださった皆さまへの感謝を示すこと。
周年を記念して行ったさまざまな企画をご紹介します。



ドックセンター祭り

'15年9月5日～10月10日(5日間)

宅配ドックのセンターにおいて、組合員と交流するイベントを行いました。輪投げ・射的などの出店、地元の商品試食、ラブコープの試食・投票、仕事体験、デコカーの乗車撮影などを実施しました。組合員さんには好評で、次年度も継続開催してほしいというお手紙もいただきました。

5センターで
開催
1,258名
参加



いっしょに100まで展覧会

'15年7月18日～23日

これからの50年後を考えるための企画として、世界中の100歳の写真を撮影続けている写真家カルステン・マエレン氏に依頼し、北海道の100歳の方を撮った写真展を行いました。北海道には100歳以上の方が2,000名以上いるといわれます。その中から10名の方にお会いして、写真を撮るとともにお話を聞き、北海道の自然から学んだ知恵や知識、経験をお聞きしました。その心の声に耳を傾け、学ぶことで、過去から未来につながる私たちの使命や役割を見いだす企画としました。

札幌駅前通地下広場の北大通交差点広場(東)と北2条広場(東)の2会場で実施しました。北大通交差点広場では職員が日頃の仕事を通じて体験したエピソード「思い出の小箱」のムービーを放映。北2条広場では、撮影の様子などのメイキング映像を放映しました。



ドックバスツアー

'15年9月8日・10日

江別物流センターのドック仕分け見学と体験、ファームレストランでのランチ、ワイナリーでのブドウ畑見学と買物を行うバスツアーを札幌東西地区で1回ずつ、計2回実施しました。



次の50年の「安心」と「革新」を築く

～北海道に広がる課題に協働で取り組む～

くらしの安全・安心のため 社会に働きかける

コープさっぽろは1965年に創立(当時は札幌市民生協)し、当時横行していた市価よりも高い「北海道価格」の是正を目指し活動を始めました。1970年代には石油価格の高騰から生活を守るため、灯油価格の引き下げ交渉の中心的存在となっています。生協は組合員と共に食を中心としたくらしの問題を解決して安全・安心を守る組織であり、その成り立ちそのものが革新的だったといえます。

近年、食一つをとっても偽装、異物混入、廃棄品の流通など、私たちのくらしはさまざまな問題に取り巻かれています。その多くは過度な経営効率の追求が進み、地域に暮らす住民一人ひとりにその経営プロセスが見えにくくなっていることが一因と考えます。

生協は、地域にくらす組合員が主人公です。組合員が経営プロセスに参画し、取引先や生協職員らと連携して事業をすすめています。この人と人とのつながりこそ、地域が抱える課題解決のキーとなるのです。

支えられた50年 次の50年を見据えて

コープさっぽろは昨年、創立50周年を迎えました。これからの半世紀を見据え、私たちは「つなぐ」を新たな経営の主テーマに設定いたしました。

1965年の創立以来50年で幾度かの経営危機を経て、組合員をはじめさまざまな方に支えられて現在があります。生産年齢人口の減少など北海道が抱える課題に対して、私たちは生協としての社会的使命を果たすべく、組合員の安全・安心を守り、過去の常識にとらわれず革新的な事業を展開し続けてまいります。

問題解決のための プラットフォームを目指す

パブリックの領域から見ると、地方行政は少子高齢化とそれに伴う医療福祉負担が重くなる一方です。これまでのように市町村単位で動いているのは、地方自治体の財政が厳しくなるのではないのでしょうか。

コープさっぽろは全道に宅配や物流拠点を有していますので、各市町村の枠を越えて北海道が抱える課題解決に向けて行政と連携して事業をすすめることが可能です。北海道にくらす人と人との「つなぐ」プラットフォームを目指し、次の50年の「安心」と「革新」を築くために事業をすすめます。

時代の課題に向き合い 信頼を築いたことは重要

創立50周年、おめでとうございます。

この50年間、長引く景気低迷や度重なる自然災害など、北海道を取り巻く社会経済情勢は大きく変化しました。その中でコープさっぽろは発足以来、食の安全・安心や自然環境の保護、雇用機会の拡大など、その時々課題に正面から向き合ってきた。道民の大きな信頼を得て、組合員数約150万人という組織に大きく成長されたことは意義深いと思います。

高齢化により起きる問題の 解決に向けた取組を評価

全国を上回るスピードで高齢化が進行する北海道では、買物や見守りなどの生活支援が必要な高齢者世帯の増加が見込まれています。「宅配ドック」や「コープ配食サービス」では、食事支度が困難な高齢者宅への宅配のほか、現在道内127市町村と「高齢者見守り協定」を締結し、配送ルートを生かした見守りや安否確認に取組まれ、大事に至らず発見されたケースもあり大変心強いです。

また、高齢者が自立した生活を送るためには、介護予防や認知症予防の取組がますます重要です。「地域まるごと元気アッププログラム」は介護予防の独自プログラムで健康運動指導士が指導を行うもので、現在11市町村が運動教室に取組んでいます。さらに昨年12月には「認知症になりにくいまちづくり宣言」を市町村に提唱し、軽度認知障害

(MCI)の早期発見や改善のための運動プログラムによる支援を行うとしています。

これらの取組が多くの市町村に広がり、高齢者の方々がいつまでも元気にくらす社会が実現することを期待しています。

共に人や地域をつなげて 地域を未来へ引き継ぎたい

北海道とコープさっぽろは、'13年に包括連携協定を締結し、安全・安心な食の振興、子育て支援、高齢者見守りなど、くらしの安心を支えるさまざまな協働事業を行ってきました。

一方で北海道は今、人口減少という地域社会の存亡にかかわる深刻な危機に直面しています。私たちのふるさとを50年後、100年後の世代に引き継いでいくために、今こそさまざまな人々や地域がしっかりと「つながり」、誰もが安心してくらす北海道づくりに取組んでいきたいと思っています。

コープさっぽろは組合員の皆さんと共に、くらしの安心を守ることを自ら行動・実践してこられ、培われてきた経験から数々の「革新」を生み出しました。今後もさまざまな活動がさらに充実し、地域の発展に大いに貢献していただければと期待をしています。



Interview

コープさっぽろ理事長

大見英明 × 山谷吉宏氏

北海道副知事



未来の仲間たちに伝えたい、私たちのことば

50周年を迎えて考えた、私たちが次の50年に実現したいこと。

それは北海道の皆さんが、北海道で生きることを誇りや喜びにするために、
コープさっぽろは「つなぐ」を合い言葉に、仲間を広げる場所となることです。

その決意を、私たちは未来への伝言として常に意識しながら、新しいチャレンジを続けていきます。

コープさっぽろの新しいマーク



組合員や職員の強い願いや思いから生まれた新しい取組に掲げる、「安心」と「革新」の旗印です。
安全・安心を感じ、新鮮で若々しく、生命力を感じるコープグリーンを全道中へと広げていきます。

コープさっぽろの伝言（新理念体系）

コープさっぽろの合い言葉 **つなぐ**

コープさっぽろの理念 **北海道で生きることを誇りと喜びにする。**

コープさっぽろの使命 **「安心」と「革新」**

各事業の考え方

- 「店舗」……………いのちの基本である「食」を大切に。
- 「宅配トドック」……………笑顔をとどけ、笑顔をいただく。
- 「移動販売車カケル」……………どこまでも買物の楽しさと便利さを載せて行く。
- 「社会給食」……………健康と成長を見つめる仕事。
- 「エネルギー」……………北海道で自立して持続可能な再生エネルギーを推進する。
- 「水工場」……………北海道のかけがえのない資産を預かっている。
- 「共済」……………助けあいの心を、ひとつにする。
- 「フリエ」……………家族のひとりとなり、家族のひとりをお見送りする。
- 「トラベル」……………人生という旅をさらに豊かにする。
- 「生活文化事業」……………学ぶ喜びを生涯の楽しみにする。

コープさっぽろが大切にすること

わかちあう	ささえあう	おもいあう	たすけあう
まなびあう	ふれあう	たたえあう	

コープさっぽろの事業と活動

社会の問題を解決

コミュニティづくり

助け合い

- インフラから見守りへ進化「宅配トドック」(P10・11)
- 生活弱者対策「移動販売車」エリア拡大(P12)
- 高齢者等の健康を守る「配食サービス」(P13)
- 「認知症になりにくいまちづくり宣言」と「まる元」(P14)
- 高齢者出張相談所「ちょこっと茶屋」(P15)
- 札幌市と健康寿命延伸に関する包括的連携協定締結(P15)
- ブータンにトイレ設置で水衛生支援(P15)
- 返済不要奨学金で就学支援(P15)

人と人を つなぐ事業

人と未来を つなぐ事業

人と食を つなぐ事業

北海道の豊かな食文化創造

食育(食べる・たいせつ)

食の安全・安心

- 地域の一番店を目指す「おいしいお店」(店舗事業)
- 「食べる・たいせつフェスティバル」拡大(P16)
- 子どもの夢を育てる「おしごとキッズ」(P17)
- 魚のおろし方を学ぶ「魚の調理教室」(P17)
- 大学との連携で食育を強化(P18)
- 農園で人気シェフの味「畑でレストラン」(P18)
- フード・アクション・ニッポン アワード受賞「エジシカ肉販売」(P19)
- 工場再編で個食化・料理難民に対応(P19)
- 道産にこだわった商品開発「なるほど商品」(P19)

● 植樹から育樹へ「未来の森づくり」(P20)

● 子育てを絵本で応援「えほんがトドック」(P20)

● 地域を未来につなぐ雇用の創出(P21)

● 外国人研修生が生産現場を支える(P21)

● 安心して働ける「カムバック制度」(P21)

● いざという時のライフライン「災害時給水設備」(P22)

● 再生可能エネルギー普及の取組(P22)

● 東日本大震災被災者支援(P22)



一人ではなく、みんなで助け合い支え合う方が、
きっと楽しく、安心してらせるまちになる。
人と人がつながるコミュニティをつくることも、
コープさっぽろの大切な事業の一つと考えています。

生活インフラから地域を見守る安心の要に

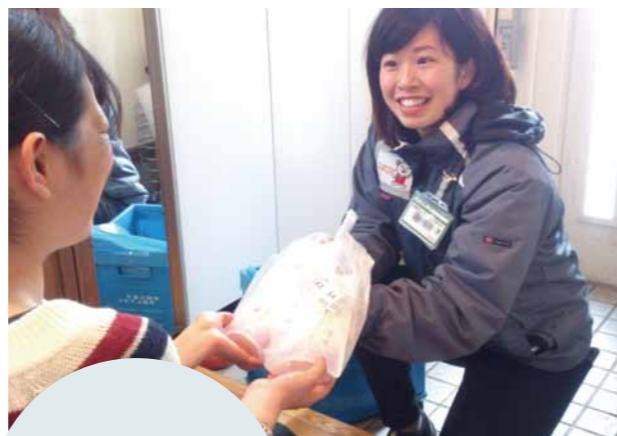
宅配トドック

全道のどこにでも商品が届く くらしのインフラに成長

近くにお店がない、お店まで行く車がない、店が開いている
時間に買物に行けない…さまざまな理由で、日常の買物に苦
労する人がいます。地域から商店が減り「買物難民」となる人
が増える中、商品を家まで届ける「宅配」の重要性は増してい
ます。

コープさっぽろは、以前は班での協同購入という形で宅配を
行っていましたが、1997年から戸配を開始。それを'06年に強
化し、コープ宅配システム「トドック」としてスタートしました。キャ
ラクターのシロクマ「トドック」はコープさっぽろの顔となり、さま
ざまなイベントでも活躍しています。

トドックの宅配登録者は今や北海道179市町村全エリアに
分布しています。北海道の隅々まで、みなさんのくらしを支える
インフラの一つとなっているのです。



宅配登録組合員数
322,101名
(世帯比率13.3%)

毎週決まったペースでの訪問が 高齢者世帯の見守り機能となる

トドックは、注文を受けた商品を単に配送するのではなく、ドラ
イバーである地域担当者が毎週1回、ほぼ決まった時間に組合
員宅を訪問するところに特徴があります。高齢者の一人暮らし
や夫婦のみの世帯を中心に、1週間に1回の安否確認、つまり
は「見守り」が行えるということです。

実際にお会いして会話を交わす場合はもちろん、お届け場所
を決めて同じ場所に注文用紙をご用意される方も、それぞれの生活ベースやパター
ンが見えてきます。そこで何か異常や異変
を感じた時に、連絡を取り必要な対応を行
うための「高齢者見守り協定」を各市町村
と締結しています。締結市町村数は、'16
年3月末で127市町村となり、7割に達しま
した。



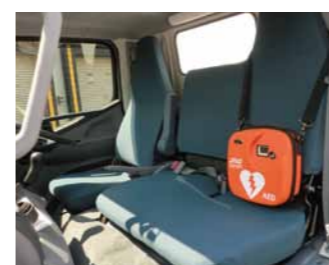
見守り協定締結市町村パネル



いざという時の救命のために 宅配トラックにAEDを搭載

見守りの効果を発揮するためには、各地域担当者が異変を
感じ取る力を磨くことも必要です。日常の声かけ、高齢者に多い
病気の知識、実際に起こった事例を「見守りバイブル」というテ
キストにまとめ、万が一の時の行動を確立できるようにしました。

さらに'15年は、いざという時の救命のスタートを早めるため、
配達車へのAED搭載を始めました。現在までに102台のAED
搭載トラックが運行しています。さらに、トドックで働く全職員を対
象に普通救急救命講習を実施していましたが、さらに応急手当



トドックトラック助手席に
搭載したAED

普及員の講習を8名が
受講・合格。これにより自
前での講習が可能とな
り、今後よりきめ細かい
指導が期待されます。



普通救急救命講習の様子

「あんしんサポーター」訪問で 高齢者世帯のサポートを強化

'15年9月28日からは、70歳以上の独居世帯の宅配利用者
11,000名を対象に「あんしんサポーター」がご自宅を訪問する
活動を札幌南センターから開始しました。高齢者が安心してト
ドックを継続利用できるよう、見守りの強化と、宅配システムの利
用サポートを進めています。

あんしんサポーターは4名体制で、1日1人当たり5名を訪問し
ています。訪問時には配達対応や納品書の確認状況、しくみの
理解度、そして宅配への要望などを聞き取っています。同意を得
た方には、ご家族のほかご友人・ご近所の方など緊急連絡先を
確認し、いざという時の
さらなる安心につなげ
ています。今後はあん
しんサポーターを20名
まで増員し、全道展開
を行う予定です。



高齢のご利用者さんを訪ねるあんしんサポーター

事例

振り込め詐欺の電話が入った方がいて、99%だまされかけていたと
ころに配達担当が来たことで、だまされずに済んだ組合員さんがいま
した。「いったん電話を切ることで気持ちが落ち着き冷静になった」と
のこと。そのほかにも電話を受けたことのある方は数人いました。

'15年
新規発行
カタログ

新カタログ追加で 買物をより便利に楽しく

'15年7月第4週から新カタログを追加しました。お得な業務用商品
を取りそろえたカタログのほか、どの週でも注文できる定番や季刊のカタ
ログなど、便利なカタログが続々登場。今後も強化を続けていきます。



LaCook (ラクック)
一般スーパーではあまり取
扱いない大容量の業務
用商品を数多く掲載した月
刊誌です。



**いつでもトドック
~スマイル・ケア~**
介護用品などを掲載した月刊
誌で、介護・介護の度合いご
とにわかりやすく掲載してい
ます。



**いつでもトドック
~くすりのトドック/
健康食品**
月刊カタログで、薬類を約
150品目、健康食品を約150
品目以上品ぞろえしています。



**いつでもトドック
~ベビー・カタログ**
2カ月保存版カタログです。ミ
ルクや紙おむつのほかスキ
ンケア用品や離乳食などもそ
ろえています。

トドックダイレクト お酒カタログ

季刊発行のお酒専用カタ
ログで、73ページの保存版冊
子に約1,700品目を品ぞろえ
しています。

いつでもたのめる

基礎調味料をはじめ、食品や
日用品約280種を毎週の注
文用紙で注文できるカタログ
です。



買い物難民の生活を支える

コープの移動販売車「おまかせ便カケル」

「買物がしたい」声に応えて 移動販売車を125市町村で運行

高齢化・過疎化が進むと、地域から小売店が閉店・撤退し、遠くまで買物に行かなければいけない人、さらには買物に行けない人を生み出します。実際に見て商品を選びたい、お店で買物をしたいという声に応えて、'10年から運行を始めたのが移動販売車「おまかせ便カケル」です。

車両は低床車で、高齢者が利用しやすいように手すりやステップが備えられています。大型の冷蔵庫を配置し、希望の多い魚など生鮮食品の品ぞろえを充実させているほか、ホットケースの惣菜や、冷凍庫のアイスクリームなども人気の商品となっています。そのほか注文を受けた商品を随時そろえながら、常時1,000種類の商品を積んで運行します。

'15年度には、78台の移動販売車が全道125市町村をカバーし、約23,000人の方がおまかせ便を利用しています。'15年9月6日には、8月末で「ていね店」が閉店したのを受け、札幌市手稲区で市内初の運行を開始しました。都市部でも高齢化が進んでいることを踏まえ、住宅密集地での運行モデルとしてノウハウを蓄積。今後は札幌市内の高齢者施設への運行の拡大を検討しています。



おまかせ便カケル運行エリアパネル



もっと親しまれるため 利用者の声に応じて改善

おまかせ便での新たな試みとして、コープさっぽろと大塚製薬(株)はタブレット端末を用いた「かんたん栄養チェックサービス」を'16年2月1日から試験的に開始しました。これはコープさっぽろと四国大学、大塚製薬との協働で過疎地高齢者の食事実態調査を全国で初めて実施した結果、移動販売車利用者の栄養充足度は、店舗利用者に比べて低いことがわかったことによります。

「かんたん栄養チェックサービス」では、タブレットの画面と音声ガイダンスに従って5問の設問に答えるのみで栄養充足度を判定。不足と判定された方には、該当する栄養素を多く含む食品を紹介するチラシを配布します。たんぱく質なら高野豆腐・チー

ズなど、意外性のある食材・食品を紹介することで気づきを提供する工夫もあります。

今後も取組を拡大し、商品を届けるだけでなく地域の暮らしを支えるおまかせ便として、住民の健康を守っていきたく思います。



「かんたん栄養チェックサービス」で配布するチラシの例

地域の健康を守り、食卓を守る

コープ配食サービス

食卓を守る配食サービスは エリア・種類ともに拡大

「コープ配食サービス」は、高齢者単独世帯や夫婦のみ世帯が増える中、食事の用意が大変という声に応え夕食の提供を'10年10月に開始しました。

当初札幌で始まったサービスは、全道6カ所に専用工場を設け、サービスエリアも拡大。内容も幼稚園給食や産後食(産後の女性に向けた配食サービス)、在宅で療養する方や介護を受ける方に向けた医療食・介護食を加え、利用人数は6,000人を超えるまでになりました。



食事から健康を守る バランス栄養食の提供開始

高齢化社会の大きな問題の一つが、医療費の高騰です。その対策として「予防」に重点を置き、健診による病気の早期発見と、病気のリスクを高めやすい生活習慣の改善が進められています。

コープ配食サービスでは、栄養改善を通じて生活習慣病を予防し、健康へ働きかけることを目標に取組を進めてきました。その一環として管理栄養士監修の下、カロリー・栄養バランス・減塩を考慮した「バランス栄養食」の提供を開始しました。1日のカロリー摂取量を1,440kcalと1,600kcalに設定した2種類の献立から選べ、冷蔵の状態でお届けします。

また、バランス栄養食を注文した方は、毎週月・水・金(13:00~17:00)に管理栄養士による無料電話相談を受けることができ、食事や栄養面についてさらなるフォローアップを受けられるようになりました。



ハレの日の食卓を飾る 料理人による「匠シリーズ」

食事は健康を保つと同時に、人が集まる食卓を作るものでもあります。人が集まった時に幸せを分かち合える「ハレの日」のごちそうとして、'15年6月11日から「匠シリーズ」の提供を始めています。「その時、その場所に匠の味を最高の品質でお届けします」をコンセプトに、有名ホテルで長年腕を振った料理人が、旬の素材をふんだんに利用した献立を開発。会議・会合や慶弔時、行楽やイベントなどさまざまな集まりでご利用いただいています。



匠シリーズのメニュー例

■'15年度配食サービス

配食サービス登録者総数	39,823名
利用数	6,125名

<週平均食数>

- ①配食サービス/30,569食
内訳 普通食12,943食、低カロリー食16,475食、
週替わり大人気メニュー542食、木曜プレミアムメニュー349食、
北海道人気駅弁メニュー260食
- ②医療食・介護食・バランス栄養食/1,412食
- ③産後食/112食
- ④行事食/109食(月平均)

■'15年度幼稚園給食サービス

取引園数/63園

札幌市15、岩見沢市6、江別市1、苫小牧市12、登別市2、室蘭市1、
千歳市1、旭川市10、釧路市11、小樽市1、北広島市1、函館市2
週平均食数/16,546食



産官学協同プロジェクトで健康と認知症予防

認知症になりにくいまちづくり宣言&まる元

地域を運動で元気に! 「まる元」に新プログラム

コープさっぽろは、高齢者向けの健康増進プログラムにより高齢化地域の活性化をめざす「地域まるごと元気アッププログラム(まる元)」を'10年に開始しました。'14年にはNPO法人ソーシャルビジネス推進センター、北翔大学と連携協定を締結し、3カ年で道内60市町村で「まる元」を行う計画です。北翔大学生涯スポーツ学部で育成した健康運動指導士をコープさっぽろが正社員として雇用し、ソーシャルビジネス推進センターが各市町村から委託を受け行う運動教室へ出向する仕組みです。体力測定会によって参加者の体力を正確に把握し、体力別(地域によっては地区別)にクラス分けし、安全で効果的な運動を提案します。

'15年度は7つの市町村で開催しました。引きこもり対策として「まる元あ・そ・び」、座位で誰にでも簡単にできる体操「ゆる元」を開発するなど、新たな取組も加えました。



「具体的相談や問合せなどあり、交流の場としての浸透を実感します」と介護専門委員の佐藤さん(写真右)



■'15年開催実績

開催回数	28回(中空知11回、道南11回、道東6回)
参加者数	572名

高齢化がはらむ最重要課題 「認知症」の問題へ取組む

その中で特に進めてきたのが、認知症への取組です。高齢化に伴い、認知症患者は増加しています。早期に認知力を検査し、認知症の前段階に当たる軽度認知障害の時に、高血圧症・糖尿病の予防・改善指導や運動プログラムを実施することが、認知力改善につながるという報告があります。

そこでコープさっぽろは、再び「まる元」の2団体と共に、'15年12月6日に「認知症になりにくいまちづくり推進本部」を立ち上げました。そして、道内の全市町村長に「認知症になりにくいまちづくり宣言」への参加を呼びかけました。推進本部は、宣言に参加した市町村へのさまざまな活動支援と、参加市町村相互の交流・協力を進める協議会設置に協力します。'15年度は7市町村の参加があり、今後もこの輪を広げていきます。

【宣言市町村が取組む課題】

1. 高齢住民に対し、積極的に認知力テストを実施し、軽度認知障害(MCI)の段階にある住民をできるだけ早期に発見する。
2. 軽度認知障害の住民に対し、高血圧症や糖尿病の予防と改善の指導を行い、認知症の発症を遅延させる効果があると考えられる運動プログラム等を用意してそれへの参加を促す。

【宣言参加市町村への支援】

- ① MCIの早期発見とMCIの疑いのある住民への認知力改善プログラムの提供の両面について、情報・企画・準備・実施・相談・助言・啓発などの活動を支援
- ② 「宣言」参加自治体間の情報や資源の共有などを促進するための「協議会」の設置と運営を支援
- ③ 全国の先進的で有効な取組の事例を提供
- ④ 認知症予防の知識とスキルをもった人材の育成を支援

地域の要請に応え、 店舗を集い・相談・健康の拠点に

高齢者出張相談所&健康ステーション

地域包括支援センターと協力連携し 「ちょこっと茶屋」を開設

コープさっぽろは、高齢者が住み慣れた地域で安心して生活できるよう、店舗を集いや相談対応の拠点として活用する取組を全道各地で進めています。

登別市・イーストしが店では、介護予防・包括的支援業務に取組む地域包括支援センター「けいあい」の協力のもと、'15年5月から毎週木曜日(シニアデー)の午前10:30~12:00に高齢者出張相談所「ちょこっと茶屋」を始めました。買物帰りに気軽に立ち寄り、日常生活の困りごと、悩みごとなどを相談できる窓口です。毎回15~20名くらいの方が参加され、常連の方、ご夫婦で参加の例も増えるなど、地域の皆さんの交流の場にもなっています。



「具体的相談や問合せなどあり、交流の場としての浸透を実感します」と介護専門委員の佐藤さん(写真右)

コープさっぽろは、登別市の取組を全道各地の店舗にも広げるため、所在地の市町村・地域包括支援センターに積極的に呼びかけています。現在では、釧路市・貝塚店、旭川市・ア

子どもたちに 安全な水と衛生的なトイレを ブータン水と衛生プロジェクト

ユニセフ指定基金により、ブータンの36の学校に安全な水道と衛生的なトイレを設置しました。基金のおかげで10,118人の子どもたちが改善された施設を利用できるようになり、周辺の約2万人の子どもたちの健康と衛生状態が改善されています。また、70校の保健の教員に研修を実施し、学校で衛生習慣を広めています。



ブータンの子どもたち

'15年3月には現地を視察

返済不要の奨学金で就学を支援

コープさっぽろ社会福祉基金

コープさっぽろ社会福祉基金では、ひとり親または両親がいない家庭や障がい者の高校生に月額1万円を3年間、返済不要の奨学金を給付しています。これまでの26年間で2,129名に2億5,176万円を給付し、経済的に恵まれない高校生を応援しています。

■'15年度給付額

人数	122名
給付額合計	1,464万円

利用者の声

- 高文連において、全道大会の切符を手に入れることができました。本人も喜んでます(2年男子・母)
- 10月3日に無事就職内定をいただき、それから自動車教習所にも通り免許取得に向け頑張っています(3年男子・母)
- 奨学金のおかげで勉強にも力が入り成績を伸ばすことができました。友達との交流も深まり、楽しい学校生活が送れています(1年男子)



手先の運動なども交えながら楽しく交流

モール店、北斗市・ほくと店、苫小牧市・ステイ店においても開催されるようになりました。また、札幌市の6店舗において開催に向けた準備が進められています。

健康寿命を延ばすことを目指し 札幌市と協定を締結

札幌市は、「健康寿命の延伸」を目標とした札幌市健康づくり基本計画「健康さっぽろ21(第二次)」をスタートしています。'15年6月、コープさっぽろはパートナー企業として、札幌市と「健康寿命延伸に関する包括的連携協定」を締結しました。

この協定にもとづき札幌市内14店舗のドラッグストアカウンターに「健康ステーション」を設置しました。健康情報パンフレットや自動血圧測定器を配備し、希望者には血圧手帳も配布するなど官民連携で市民の健康づくりに取組んでいます。

道内店舗の環境、地域の事情は異なりますが、コープさっぽろは、それぞれの自治体や地域住民、専門機関、民間事業者とのネットワークの輪を広げていきます。

人と食をつなぐ事業の輪

2015年度 | 活 | 動 | 報 | 告 |

食は人を生かし、日々の健康を支え、幸せをつくるもの。
食に起こる問題の多くは、人と食の距離が遠ざかったことによります。
コープさっぽろは、その距離を縮める「信頼」を現代に再度築くために、
日々新たな取組を続けています。

食の大切さを楽しく体験しながら学ぶ

食べる・たいせつフェスティバル2015



地域の名物イベントとなり 子どもたちの「食教育」の場に

現代に根ざすさまざまな食の問題は、消費者に食の知識が届かないことから起きています。そこでコープさっぽろは「食育」を重視し、'07年より「食べる・たいせつフェスティバル」を開催しています。道内の食育に関わる団体や生産者、メーカーが一堂に会し、消費者と交流を深めながら、北海道のおいしい「食」や地産地消について伝えていくイベントです。

子どもたちに向けて、楽しい企画で「食べることの大切さ」を体験・発見できるよう、「体験型学習企画」の開発に力を入れています。各会場では、最も優れた取組を実施した団体を表彰し、多くのアイデアが生まれることを促進しています。

開催が8会場に拡大し 各地で体験プログラムが大人気

'15年度は新たに室蘭を加え、全道8会場で開催。過去最高となる約3万人が来場し、子どもの参加が半数以上を占めるイベントとして成長しました。積極的に体験企画に参加する子どもたちが増えて、イベント滞在時間が昨年の1.5倍と大幅に伸び、にぎわいある会場となりました。

今年度は、体験企画の修了者にポイント券を進呈し、集めてコープ商品と交換できるお買物体験コーナー「ラブコープコンビニ」が好評でした。『50周年にちなんだ〇×クイズ・50kg計量チャレンジ』『いっしょに100まで展覧会』など、コープさっぽろ50周年にちなんだ企画も登場。そのほかにも『全店使用可能5%OFFクーポン券プレゼント』や『畑でレストラン(北見・釧路)』など、昨年以上に楽しく学べるプログラムをそろえ、「地域の名物イベント」として定着したことを実感できるものとなりました。

【体験企画優秀賞受賞団体】

- 札幌会場 (株)ヤクルト本社「おなか元気教室」
(株)J-オイルミルズ「オリジナルドレッシング作り」
独立行政法人農畜産業振興機構「砂糖のみみつ」
- 苫小牧会場 北海道キリンビバレッジ(株)
トロピカーナ「フルーツとジュースのみみつ教室」
- 帯広会場 おびひろ動物園「だれがなにを、たべたのかな?」
- 旭川会場 ハウス食品withふらのカレンジャー娘
「ハロウィンミッキーオムカレー作り体験」
- 函館会場 (株)ヤクルト本社「おなか元気教室」
- 北見会場 (株)マルキタ「身近な生魚を利用して、昔ながらの美味しい糠魚を作ろう」
- 室蘭会場 日糧製パン(株)「メロンパン作り」
- 釧路会場 日本ハム北海道販売(株)「ウィンナー手作り体験教室」



参加者の声

- 子どもが楽しんでいるだけでなく、知らなかったことを知る良い機会でした。
- いろいろな体験ができて、あっという間に時間がたつて子どもも大喜びでした。
- 体験型のブースがたくさんで楽しい!
- 親子で楽しめた。 ● 取り扱っている生産者の声が聞けるのがいい。
- これからも子どもたちのために、ずっと続けてほしい。

■ '15年度地区別開催状況 参加学校数:37校

日時	地区	開催会場	来場者数		出展者数		支援者数	
			'15年度	前年との差	'15年度	前年との差	'15年度	前年との差
8月22日	札幌	札幌市スポーツ交流施設 コミュニティドームつどーむ	8,517	1,423	111	7	824	▲12
9月26日	苫小牧	苫小牧駒澤大学	2,568	488	61	1	351	40
10月11日	帯広	十勝農協連家畜共進会場 アグリアリーナ	4,707	▲121	60	12	292	22
10月11日	旭川	旭川大雪アリーナ	2,905	▲148	82	30	481	181
10月17日	函館	函館総合卸センター内 流通ホール	3,020	307	46	7	306	▲17
10月24日	北見	サンドーム北見・ サンライフ北見	3,339	610	73	9	320	40
10月31日	室蘭	旧室蘭駅舎・ 旧室蘭駅舎公園ぼぼらん	2,145	2,145	50	50	300	300
11月8日	釧路	釧路市観光 国際交流センター	2,641	1,203	56	7	315	67
8地区合計			29,842	5,907	539	123	3,189	621

食の現場で夢を広げる仕事体験

おしごとキッズ

コープさっぽろの店舗などでの仕事体験を通して、流通や食のしくみ、仕事の面白さや大変さを学ぶ「おしごとキッズ」を夏休み・冬休みに開催しています。

このプログラムでは、店舗の仕事体験のほかに、事前学習としてさまざまな食材の知識や加工作業、流通のしくみなどについて学ぶ機会を設けています。「エジシカ肉学習」「親子料理教室」やお取引先さまに協力いただいた食育学習体験を実施しました。お店のお仕事体験では、包丁を使って魚を3枚おろしにするなど、より実際の作業内容に近づけるプログラムの進化が図られました。

■ '15年度開催状況

開催店舗数	23店舗
実施回数	25回
参加人数	507人



タブレットなど職員が使うシステムにも触れます



バックヤードで精肉をカットする体験

参加者の声

- 職員と同じエプロンや名札を用意してくれたのが良かったです。普通の見学と違い本物の体験で、内容が充実していました。
- 初めて参加しましたが、子どもたちの顔ははじめと終わりでだいぶ違いました。「楽しかった」と言われたので、参加して良かったです。次回も行きたい。
- 今回の体験で、仕事とは何か、お金をもらうことは何かを短時間ながらも感じることができたようです。また参加したいです。

魚をおろせる人を増やし、調理技術を継承する

魚の調理教室

コープさっぽろは'14年から、札幌市中央卸売市場と協力して「魚の調理教室」を開催しています。近年魚をさばけない消費者が増えたことで、和食の文化が家庭で継承されない危機が生まれています。魚をおろす調理技術を伝えることで食文化を伝承し、魚の消費拡大にもつなげることを目指しています。

受講者は中央卸売市場を見学した後、調理師から3枚おろしの方法を教わり、おろした魚を調理して試食するプログラムです。参加者からは「苦手だった魚に触れるようになった」「今後も丸一匹の魚を買って、3枚おろしに挑戦してみたい」と喜びの声が寄せられています。

'15年度は、前年の参加者のアンケートから、夏休みと冬休みに親子教室を開催しました。乳幼児の託児も用意し、夏休み2回、冬休み1回計3回の開催で48組の参加がありました。また、通常の開催時も、朝の集合時間が早いという声に応え、午前前に2店分をまとめて開催することで開催時間を調整。1時間遅い開始時間とすることができました。



■ '15年度開催状況

開催回数	60回
参加人数	1,474名

親子教室の様子



おいしく食べることで「健康」を導く

栄養指導のプロと連携

コープさっぽろはさまざまな教育機関との連携を通じて、次世代の育成へと取り組んでいます。

'14年には旭川大学と連携・協力の協定を締結し、地域活性化と豊かなまちづくり、人材育成に取り組んでいます。その協力を、'15年度も継続。旭川市近郊の牧場やチーズ工房の商品を集めた「フェルミエーズ」(※フェルミエ…フランス語で「農家製」)を食べる・たいせつフェスティバルの旭川会場内で開催するほか、さまざまな食育イベントを協働で実施しました。また、短大学生のレシピで作るお弁当メニューの販売や、学生が考案したメニューの実演販売も実施。コープさっぽろからも出張講義や、ビジネスインターンシップの受け入れなど、旭川大学の教育活動への協力を行っています。

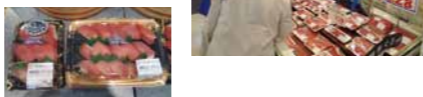
また、天使大学とはレシピ開発などで長年の連携を続けています。'15年からは、高齢者の健康保持・増進を目的に新たな業務提携を進め、コープ配食サービス(P13参照)のレシピの開発や、コープ文化教室において高齢者を対象とした栄養アドバイスを実施し、生活習慣病などの「予防」への取組を開始しています。



天使大学の学生が開発したレシピを広報誌「ちょこっと」に掲載

小樽水産高校実習生が「元気まぐろ」を販売

小樽水産高校漁業科では、マグロのはえ縄漁を50年にわたって続けています。漁獲したマグロの店頭販売を、コープさっぽろ 小樽南店・みどり店で'15年4月11日・12日に行いました。当日は朝から両店ともに大盛況で、マグロの解凍が進まないほど。商品の陳列からお客さまへの説明、マイク放送でのアピールに加え、試食販売も実習生がすべてこなしました。寿司やお造りの販売も行いましたが、出足はなくなり、2店合わせて約160万円を売り上げました。



人気シェフの地産地消メニューをレシピブックに

畑でレストラン レシピブック発刊

コープさっぽろは'04年より、安全・安心な食の提供や消費者交流に努める農漁業者を表彰し応援する「コープさっぽろ農業賞」を実施してきました。その歴代受賞生産者の畑の中で、名店のシェフがとれたての農産物を使ってランチを提供するのが「畑でレストラン」です。合わせて農園見学や収穫体験、農作物の食べ比べなど生産者の方々によるアクティビティも行われ、食のプログラムとして人気の企画となっています。

'15年は4年目の開催となり、6月～11月に全21回を開催。さらに'16年2月1日には、参加シェフが「畑でレストラン」で生み出した料理をレシピにまとめ、「畑でレストラン 北海道レシピブック」として発刊しました。前菜からサラダ、スープ、パスタ類、メインディッシュ、デザートまで、全78品のレシピを、開催した農園の美

しい写真とともに掲載。北海道農業と料理の魅力を余すところなく伝える1冊となりました。



■'15年度開催状況

開催回数	21回
参加人数	905名

本体1,800円+税
道内大型書店、Amazonで販売。コープさっぽろ店舗カウンターで取寄せ可

エゾシカ被害対策とジビエ食文化の発信

2015フード・アクション・ニッポン アワード受賞

エゾシカの増加は農業被害をもたらし、社会問題となっています。そのエゾシカを食材として活用するため、コープさっぽろは北海道庁エゾシカ対策室と、エゾシカ食肉事業共同組合と連携。安全性を確保したエゾシカ肉の流通のしくみをつくり、'13年から店頭での販売を行っています。

販売店舗の拡大を進め、生肉の販売店は10店舗となっています。また、大和煮やスープカレー、ソーセージなど10種の加工品も展開しており、'14年10月27日からは加工品のみ取り扱い店舗が新たに20店舗加わりました。

これらの取組が評価され、「フード・アクション・ニッポン アワード2015」の販売活動部門 優秀賞を獲得しました。「黄金そだち」「畑でレストラン」(P18参照)「魚の調理教室」(P17参照)の取組に続き、4年連続の受賞となりました。



フード・アクション・ニッポン アワード2015表彰式



エゾシカを飼育する牧場の様子

■'15年エゾシカ肉販売額

鹿肉(生)	10,358
鹿加工品	2,980
合計	13,338

(第1週～43週、単位:千円)

工場再編で個食化に対応

江別新食品工場の稼働

近年、1世帯の人数が減少傾向にある中、北海道は世帯規模の小さい世帯の割合が全国平均を上回っています。単独世帯や夫婦のみの世帯の方々を使いやすい、個食タイプの商品の生産が必要と考えました。

そこで、'15年7月に江別市に新食品工場を稼働し、これまで石狩工場生産していた大豆加工ラインを移動しました。1人～2人家族向けの少量使い切りタイプの商品供給を強化し、出荷数も主力製品となるまでに成長しています。

ラインを移転した後の石狩工場では、調味料や店内ペーカリー向けのパン、配食サービスの調理品を強化。さらに、これまで



江別新食品工場

外部に依頼していたカット野菜やフルーツなども製造しています。自前で製造することにより、さまざまな料理にすぐ使えるキット品が充実。材料が余る、料理が苦手など、食事の用意に悩む方々により使いやすい商品の供給が可能になりました。



江別食品工場稼働後、使い切りやすい3連パック(150g×3)仕様の絹豆腐を新発売

PB新シリーズ「なるほど安心商品」が登場

コープさっぽろは「シンプル」と「良質」、できる限り「北海道製造」にこだわったプライベートブランド(PB)「なるほど商品」を展開しています。その中でも、「安心」をキーワードに、原料や産地、添加物などをより厳しい基準を設けて厳選したシリーズ「なるほど安心商品」を'15年11月1日に販売開始しました。

第1弾商品 化学調味料不使用 ノンオイルドレッシング

利尻産昆布と余市産りんご果汁を使用。化学調味料以外にも原料を徹底して見直し、添加物を減らして優しい味に仕上げています。



次世代の子どもたちが生きる未来を、もっと良いものにしたい。そのためにコープさっぽろは事業を「つないで」いきます。子どもたちを健やかに育てるための支援や環境活動など、未来を見据えた活動にも力を入れています。

植樹した木々を、森へと育てる コープ未来の森づくりプロジェクト

店舗での買物時に、レジ袋を辞退された分を基金として積立て、森づくりに活用する「コープ未来の森づくり基金」を'08年から始めています。基金はコープの森での植樹を中心に、森づくりに取り組む団体の支援などに利用されています。森づくりの取組は、'15年に「第4回いきものにぎわい企業活動コンテスト」を受賞しました(P26参照)。

'15年度は全国でも珍しい、市民参加型の育樹イベント「育樹祭」を道民の森で開催しました。育樹とは、植樹した木々のまわりの草取りや剪定を行い、成長を助ける大切な作業です。森づくりといえばほとんどの場合植樹活動が重視されがちですが、植えた木がきちんと育って初めて森となります。そこで育樹イベントを初めて企画し、参加者は草取りコンテストや森の探検など、森とふれあう一日を過ごしました。

育樹祭の取組を植樹祭とともに継続し、今後北海道の森づくりを基点とした環境への取組を行っていきます。



育樹祭の草取りコンテストの様子

■'15年度の森づくり

	植樹本数	参加者数
コープの森植樹祭	4,165本	906名
ぎよれん魚付林植樹	4,861本	519名
合計	9,026本	1,425名



コープの森植樹祭の様子

「ずっと親子のたからもの」絵本を通じふれあいを えほんがトドック

家庭での親子のふれあいや、子育て世帯が安心して交流できる環境をつくるため、'10年に「コープ子育て支援基金」を創設しました。子育て世帯(1~2歳)を対象に、無償で4か月ごとに4冊の絵本をお届けする「えほんがトドック」に取り組んでいます。'15年度の申込者は7,334人で、6年間で42,315人に227,110冊の絵本を届けました。北海道の対象世帯の約3割にお届けしています。

また、全道の保育園・幼稚園などで絵本の楽しさを伝える「えほんわくわくキャラバン」を実施しています。'15年度は115施設で8,585名の子どもたちが参加しました。

そのほか札幌では、歌手のおおたか静流さんや絵本作家の宮西達也さんをお招きして「絵本でわくわく!ファミリーライブ」を2回開催しました。絵本を通じて楽しい時間を過ごしていただきました。



利用者の声

届いた2冊はどちらも子どもの心にヒットするものでした。何度読んでも飽きないようで、子どもに「絵本って、こんなに楽しいものなんだ!」という気持ちを育ててくれて感謝です!



絵本でわくわく!ファミリーライブの様子

地域で働き、暮らし続けられる社会を目指して

雇用問題への取組

地域からの人口減少が進む中、雇用を守り、誰もが働きやすい職場をつくること、地域の人々の暮らしを守ることに繋がります。コープさっぽろはさまざまな雇用の問題に取り組んでいます。

障がい者の就労機会を広げる

コープさっぽろが力を入れているのは、障がい者雇用です。店舗や宅配センター、エコセンターなど各拠点で障がい者を積極的に雇用しています。'15年度の障がい者職員は279名に達し、法定雇用率2.0%を上回る3.5%を達成しています。引き続き、雇用率4.0%を目指してまいります。



パート職員の定年延長

'14年度からパート職員の定年年齢を引き上げ、65歳まで継続雇用する制度を設けました。ただし定年延長後の業務や待遇の違いがあったため、新たに制度を変更。待遇改善に取組み、手当類を通常のパート職員と同一の扱いにしました。新しい制度は'16年3月11日から運用し、'16年度の対象者は822名となる見込みです。実績のあるパート職員が継続して仕事をすることは「大きな戦力でとても助かる」と現場職員も歓迎しています。

カムバック制度新設

結婚・出産や家族の介護、けがや病気など、さまざまな理由で仕事を続けられない状況になる方がいます。そういった特定の理由があり、退職・休業制度の範囲を超えるため退職せざるを得ない職員が、退職後5年以内であれば元の待遇で再雇用する制度を'16年1月1日に新設しました。

外国人研修生受入れ

コープさっぽろでは、石狩・江別両食品工場で、外国人技能実習生の受入れを行っています。実習生は海外交流事業協同組合による1カ月の生活指導や日本語指導を受けるほか、就業前に工場ルールや衛生管理など2日間の研修を受け、各工場ラインでの実務教育に移ります。実習生専用の寮を完備し、日本語検定1・2級の取得や、寮長・副寮長を務めることを時給に反映するなど、より技能習得に意欲を持てる環境・待遇を用意しています。

石狩食品工場	中国101名
江別食品工場	中国32名、ベトナム8名



実務研修前に、衛生についてしっかり指導

食品工場での実務をこなしながら技能を身につけます



ビジネススクール中級コースを開催

コープさっぽろは、小樽商科大学ビジネススクール(OBS、正式名称:小樽商科大学大学院商学研究科アントレプレナーシップ専攻)との連携講座「コープさっぽろ ビジネススクール」を'11年から開催しています。

'15年度は、より実践的な全12回の中級コースを開催。ケーススタディで企業の抱える問題を診断して解決策を見いだす能力を身に付け、ビジネスプランニングでアイデアを実現可能なプランに練り上げる企画力・事業構想力を養いました。コープさっぽろ職員と取引先の合計35名が共に学びました。



断水時でも飲料水を供給できる

LUCY店給水所稼働

水は生活の中で最も重要なライフラインの一つであり、水資源の有効活用と、災害時の水源確保は地域の課題の一つです。そこでLUCY店(札幌市白石区)に、地下水をろ過して飲料水を造る「地下水膜ろ過システム」を導入しました。店舗敷地内に井戸を掘り、汲み上げた地下水をろ過し水道法の水質基準を満たす飲料水に処理する仕組みです。残留塩素濃度などの水質は24時間365日測定記録し、異常があった場合は自動的に上水のみ切り替わります。

通常時は店舗で上水道と地下水の二元給水を行いますが、

集中豪雨や震災などの災害時に上水道が断水した場合は、近隣住民の方へ飲料水やトイレを提供できるようになります。最大1日当たり28,000人分(3L/人・日の場合)の飲料水を製造できます。

'15年10月10日に、札幌市や白石区の担当者、地元町内会会長出席のもと、給水開始式を執り行いました。



地下水膜ろ過システム

持続可能なエネルギー利用の輪を広げる

再生可能エネルギー推進の取組

コープさっぽろは脱原発を掲げ、持続可能なエネルギーとして再生可能エネルギーを推進しています。

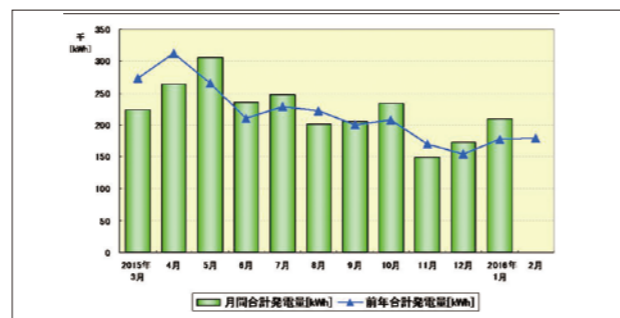
これまでメガソーラー建設やバイオガスプラントの実証実験、エネルギー監視システム(BEMS)による測定などさまざまな取組を進めてきました。その実績により、3つの地方自治体から、



バイオガスプラント

'12年に設けた七飯町バイオガスプラントでは、'15年度は新たに農林水産省のバイオガス精製・実用化の実証実験に参加しました。発生したバイオガス内のCO₂を除去し、メタン濃度を高めた「バイオメタン」を精製・高密度貯蔵・有効利用するシステムを構築しています。

再生可能エネルギー利用の調査事業を委託されました。滝川市は太陽光発電、乙部町は温泉熱と風力、清水町はバイオガスと、各地で特色を持った再生可能エネルギーの導入可能性と利用法を調査しています。



メガソーラー

'13年の建設から、安定的に発電を続けています。エネコープホームページで毎月の発電量やその推移グラフの表示をし、組合員への情報提供を行っています。毎月およそ700軒分の電気を発電しています。



ホームページへの発電情報表示

東日本大震災被災者支援を続けています

コープさっぽろは、東日本大震災で被災し北海道に移転・居住されている方を対象に、店舗利用10%割引カードを提供する支援を'11年度から実施しています。当初は1年間の

予定でしたが、収束しない原発事故の状況を考慮して、'16年6月30日まで毎年期間を延長してきました。'15年度は165名の方にご活用いただきました。'16年度についても延長し、引き続き被災者の方々の支援を行ってまいります。

2015年度

環境活動報告

コープさっぽろは'08年の洞爺湖サミットを機に、環境活動を一層推し進めています。

事業活動の環境負荷を減らす取組はもちろんのこと、組合員に環境問題を伝えて意識を高め、共に活動を進めることで、事業活動そのものが環境に役立つしくみづくりを考え、進めています。



環境理念

コープさっぽろは、組合員への「7つのお約束」を基本にして、組合員、役職員が共に手を携えて「くらしの安心」と「より豊かなくらし」のために平和を追求し、人間を尊重し、地球環境を守り、福祉・助け合いにあふれた地域づくりを積極的に推進していきます。コープさっぽろは、これらの活動が北海道全域に根ざし、北海道民全体が未来に向けて希望に満ちて生きることができるよう、持続可能な環境保全型の社会づくりをめざします。

環境方針

コープさっぽろは、店舗・宅配システムドック・共済などの事業を通じ組合員に安心してご利用いただける安全な商品・サービスを提供し、北海道全体の豊かなくらしと持続可能な環境保全型の社会づくりに寄与していきます。

- ① 事業における汚染の予防に取組むとともに、より少ない環境負荷でより大きな価値を生み出せる業務執行を実践します。そのため、中期・短期の環境目的・目標を掲げ、定期的に見直しを進めながら、環境マネジメントシステムを継続的に改善します。
- ② 環境保全にかかわる法令・条例、並びに協定等受け入れを決めた要求事項を順守します。
- ③ この方針を全役職員に周知徹底し、マネジメントシステムの適用範囲内で一人ひとりが自らの果たすべき役割を自覚して行動します。
- ④ この環境方針を広く公開するとともに、環境活動の全ての取組について定期的に公表します。

- 電力・燃料等のエネルギー資源を効率的に使用し、地球温暖化防止に寄与します。
- 廃棄物の発生抑制と削減に取組みます。
- 環境に配慮した事務用品の使用に努めます。
- 環境に配慮した商品の開発と普及に取組みます。
- 業務の中で環境への配慮が積極的に行われる風土づくりに取組みます。
- 組合員の声に学ぶとともに、地域に対して、環境問題の啓発を進めます。
- 環境保全型の地域社会づくりに取組みます。

環境活動トピックス

'15年度に力を入れ、高い評価を受けた取組をピックアップしてご紹介します。

Topic 1 エコセンターの取組

innovation 資源を集めるエコの拠点をつくり、物流の戻り便を使い環境負荷をかけず資源回収する

コープさっぽろの事業活動や、組合員の家庭から出る廃棄物の中の資源物を回収・処理し、リサイクルへと回す拠点が「エコセンター」です。



古着古布回収規模拡大で現地雇用にも貢献

'15年2月23日、コープさっぽろは古着古布回収を札幌市内で試験的に開始しました。5月25日からは全道へと対象範囲を拡大。これまでに、予想を超える671tの古着古布を回収しました。

回収した古着古布はカンボジアでリユースされているほか、工業用のぞうきんとしてリサイクルされています。'16年2月29日からは、カンボジアでニーズがあるため、新たに回収品目に靴とリュックサックを開始しました。

さらに株式会社キョクサンのカンボジアの現地直営店は店舗数が5店舗まで増え、30人の現地雇用を生み出しています。

カンボジア以外にも支援の対象を広げるために、株式会社キョクサンへの売上金のうち150万円を、北海道ユニセフ協会を通じて募金しました。



カンボジアでの販売の様子

北海道ユニセフ協会へ募金を贈呈

難リサイクル古紙の問題解決へクラスターパック回収開始

'15年12月から店舗から排出される難離解古紙(缶ビールのクラスターパックなど)の回収を始めました。

難離解古紙は、通常の紙資源とは異なる処理が必要ですが、回収ルートが確立しておらず、可燃ごみとして処分されていました。コープさっぽろの分別精度が高いため、回収・リサイクルが可能になりました。年間で30tの回収見込みです。



障がい者雇用をさらに拡大

エコセンターは障がい者雇用にも力を入れ、能力に適した配置で業務にあたっています。今年度は22人中12人(約55%)の雇用を実現し、健常者と変わらない活躍をしています。



Topic 2 レジ袋削減の取組

innovation レジ袋そのものを、より環境に配慮した商品へ変えていく

'08年からコープさっぽろではレジ袋の有料化、コープ未来の森づくり基金(レジ袋辞退分を基金として積み立てて植樹や森づくり活動を支援)など、さまざまなレジ袋削減の取組を進めてきました。

'15年7月からは環境負荷低減を進めるため、レジ袋の素材をサトウキビ由来のグリーンポリエチレンを15%配合した環境配慮型の商品に変更しました。このレジ袋は、(一社)日本有機資源協会が生物由来原料を活用していると認定する「バイオマスマーク」の、道内流通業で初の取得となりました。

'15年12月からエコマイバッグの使用を促進するために、レジが6台以上ある70店舗において専用の木製販売棚を設置しました。



新しいロゴとバイオマスマークが印刷された新レジ袋

店舗に設置されたエコマイバッグ販売コーナー

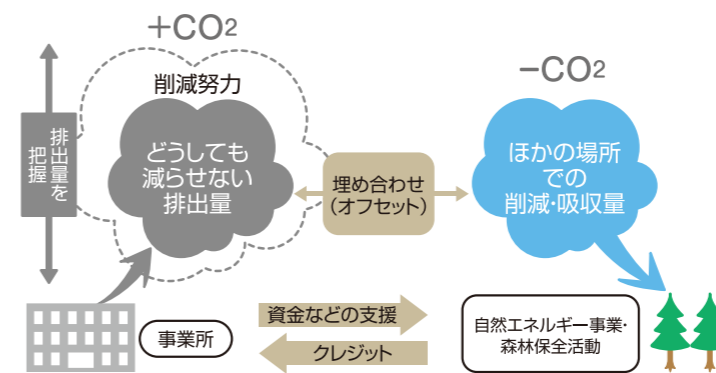
Topic 3 カーボン・オフセットの取組

innovation 道内企業との連携で、組合員の買物が森林づくりとCO₂削減につながるしくみに

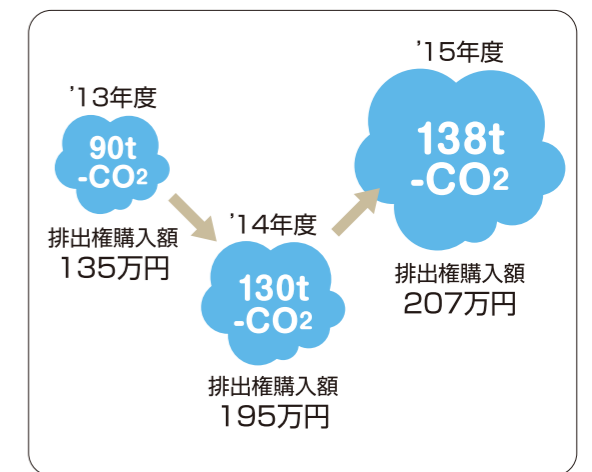
コープさっぽろが'13年に北海道と締結した包括連携協定の協働する項目には、森林づくりの推進が含まれています。同年から北海道と、同じく北海道と協定を締結するサッポログループとの協働で「北海道の森を元気にしよう!キャンペーン」を実施しています。キャンペーン商品に二酸化炭素排出権を付与し、集まったお金で北海道内のカーボン・オフセットのプロジェクトを支援し進めるものです。

'15年はサッポロビール(株)に加えポッカサッポロ北海道(株)も参加。対象商品に「リボンナポリン」を加え、子どもや酒が飲めない人にも参加できるようにしました。

また今年度からの取組として、「食べる・たいせつフェスティバル」(P16参照)の札幌・旭川会場で行われたサッポロビール(株)の木育イベントで排出するCO₂もオフセットしました。



カーボン・オフセットとは?
どうしても削減できないCO₂排出量を、自然エネルギー事業(CO₂削減系)や森林保全活動(CO₂吸収系)のプロジェクトに投資して埋め合わせ(オフセット)をすること。



環境活動トピックス

Topic 4 動物園との取組(ホッキョクグマ応援プロジェクト)

innovation 生物多様性を学ぶ動物園を、もっと広い環境教育の場として活用

コープさっぽろは環境活動の一環として北海道の4動物園と協定を締結し、市民への啓発などさまざまな活動を共に進めています。'15年度に行った、円山動物園との取組について以下に紹介します。

	協定締結日
札幌市円山動物園	'09年 4月27日
帯広市動物園	'10年 8月10日
釧路市動物園	'11年11月23日
旭川市旭山動物園	'13年 4月27日

ホッキョクグマの赤ちゃん愛称投票

'14年12月に円山動物園のホッキョクグマ「ララ」の8頭目の子どもが生まれました。そこで'15年7月11日～8月2日、愛称投票を札幌市内26店舗で実施しました。934票の投票の結果、「リラ」に決定しました。



環境ボードを設置

親子で楽しむことのできる環境クイズを設けたボードを園内に設置しました。



自然と環境を学ぶ「コープ探検隊」

円山動物園サポートクラブのメンバーである酪農学園大学と共同で、環境教育を盛り込んだ園内探索型のイベント「コープ探検隊」を'15年9月19日に実施しました。



Topic 5 環境に関する受賞など一覧

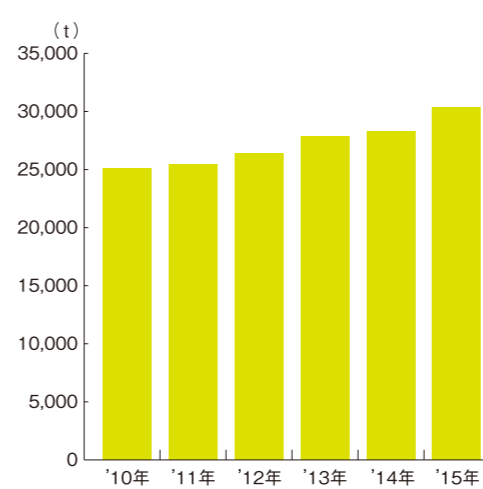
2009年	第1回さっぽろ環境賞 循環型社会形成部門 特別賞	環境活動全般
2010年	平成22年度省エネ照明デザインアワード 商業施設部門 優秀事例	西宮の沢店
	日本環境経営大賞 CO2削減優秀賞	電気使用量削減 宅配BDF
	第2回さっぽろ環境賞 地球温暖化対策部門 札幌市長賞	カーボンフットプリント
2011年	容器包装3R推進環境大賞 小売部門 奨励賞	資源回収
	2011年度グッドデザイン賞 商業・産業用途の建築物・空間の部 グッドデザイン賞	西宮の沢店
	第14回オゾン層保護・地球温暖化防止大賞 経済産業大臣賞	西宮の沢店
2013年	第3回さっぽろ環境賞 地球温暖化対策部門 札幌市長賞	西宮の沢店
	第15回グリーン購入大賞 民間団体・学校部門 大賞	環境活動全般
	平成25年度北海道ゼロ・エミ大賞 一般部門 優秀賞	資源回収
2014年	第4回カーボン・オフセット大賞 環境大臣賞	カーボン・オフセット
	第16回グリーン購入大賞 協働プロジェクト部門 優秀賞	カーボン・オフセット
	平成26年度循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰3R活動優良企業	資源回収
	平成26年度リデュース・リユース・リサイクル推進者功労者等表彰リデュース・リユース・リサイクル推進協議会会長賞	資源回収
2015年	第1回食品産業もったいない大賞 農林水産省食糧産業局長賞	バイオガスプラント
	帯広 ホッキョクグマ応援プロジェクト 感謝状受領	ホッキョクグマ応援プロジェクト
	第4回いきものにぎわい企業活動コンテスト 公益社団法人国土緑化推進機構理事長賞	植樹・森づくりワークショップ
	津別町CO2吸収促進事業 感謝状受領	カーボン・オフセット
	北海道 オフセット・クレジット購入証明書受領	カーボン・オフセット

環境データ報告

事業活動の環境への負荷と、環境活動による負荷の相殺のデータを、毎年記録し管理することで、より環境活動が効果的に行えます。ここでは、環境に関する主要なデータ数値をご報告します。

エコセンター回収量

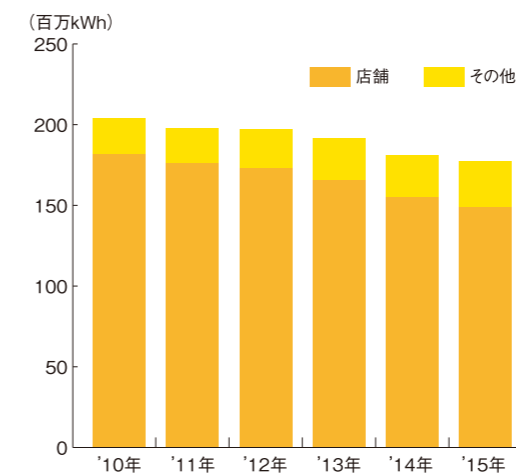
Point ▶ 回収量は毎年増加しており、'15年度は30,375tの資源を回収しました。これは16,645tのCO2削減に相当します。



	'10年	'11年	'12年	'13年	'14年	'15年	'14年比
ダンボール	16,456	16,291	16,294	16,870	16,617	16,991	102%
紙パック	302	313	307	289	292	280	96%
週刊トドック	6,293	6,673	7,427	8,262	8,950	9,948	111%
新聞紙	699	817	933	976	975	983	101%
発泡	474	471	467	416	384	411	107%
ペットボトル	58	57	61	60	58	61	105%
スチール缶	33	32	33	30	27	18	67%
アルミ缶	36	41	44	44	44	46	105%
PPバンド	40	36	37	41	40	42	105%
内袋	71	82	85	128	125	117	94%
廃食油	605	663	699	722	769	807	105%
古着古布	-	-	-	-	21	671	-
合計	25,067	25,476	26,387	27,838	28,302	30,375	107%

電気使用量

Point ▶ 店舗の電気使用量はLED化と空調等の清掃実施により2年連続で減少しています。江別食品工場の新設によりその他が昨年度比108%と増加しましたが、合計では98%と継続削減しています。

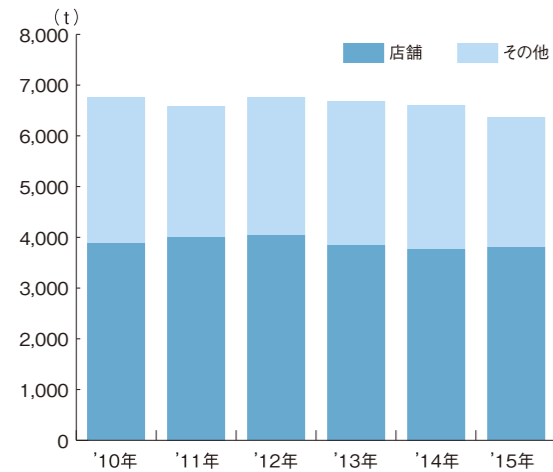


	'10年	'11年	'12年	'13年	'14年	'15年	'14年比
店舗	182	176	173	166	155	149	96%
その他	22	22	24	26	26	28	108%
合計	204	198	197	192	181	177	98%

環境データ報告

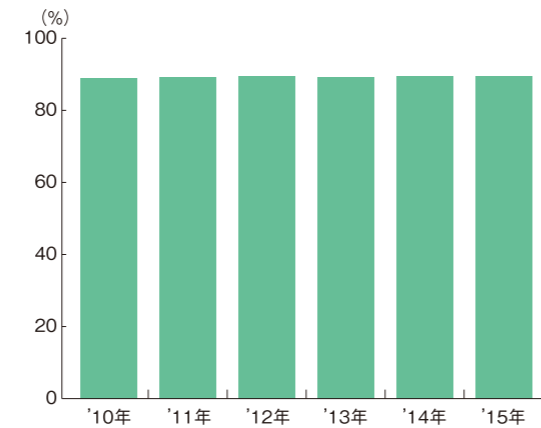
生ごみ排出量

Point ▶ 事業所から排出される生ごみは計量を行い、廃棄量の見える化を行っています。



レジ袋辞退率

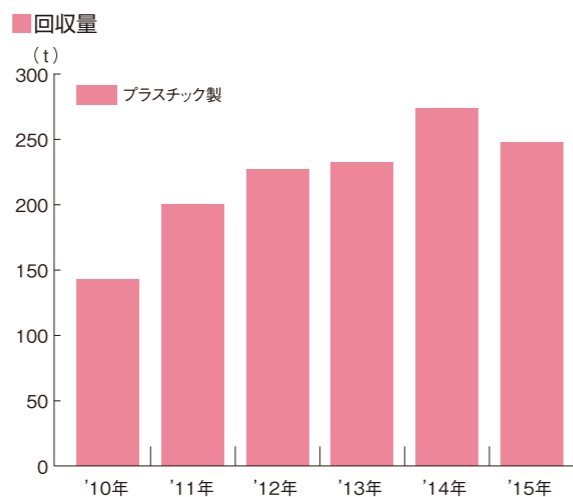
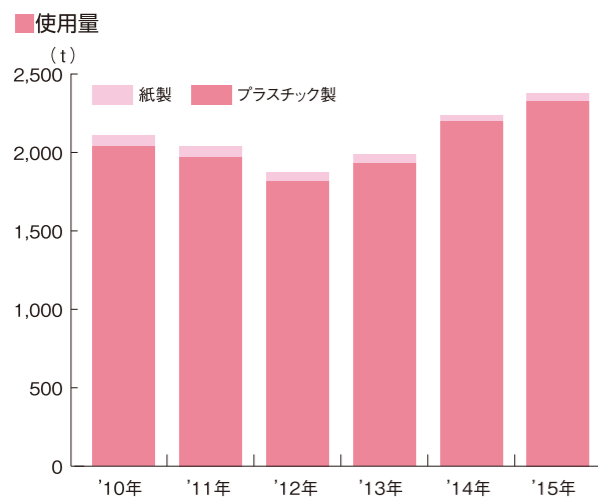
Point ▶ '15年度の削減率は89.6%となり、'08年10月にノーレジ袋運動を始めてから6年連続で89%以上の辞退率を達成しています。'15年度のレジ袋削減枚数は7,262万枚であり、3,469tのCO₂の削減に相当します。



容器包装使用量

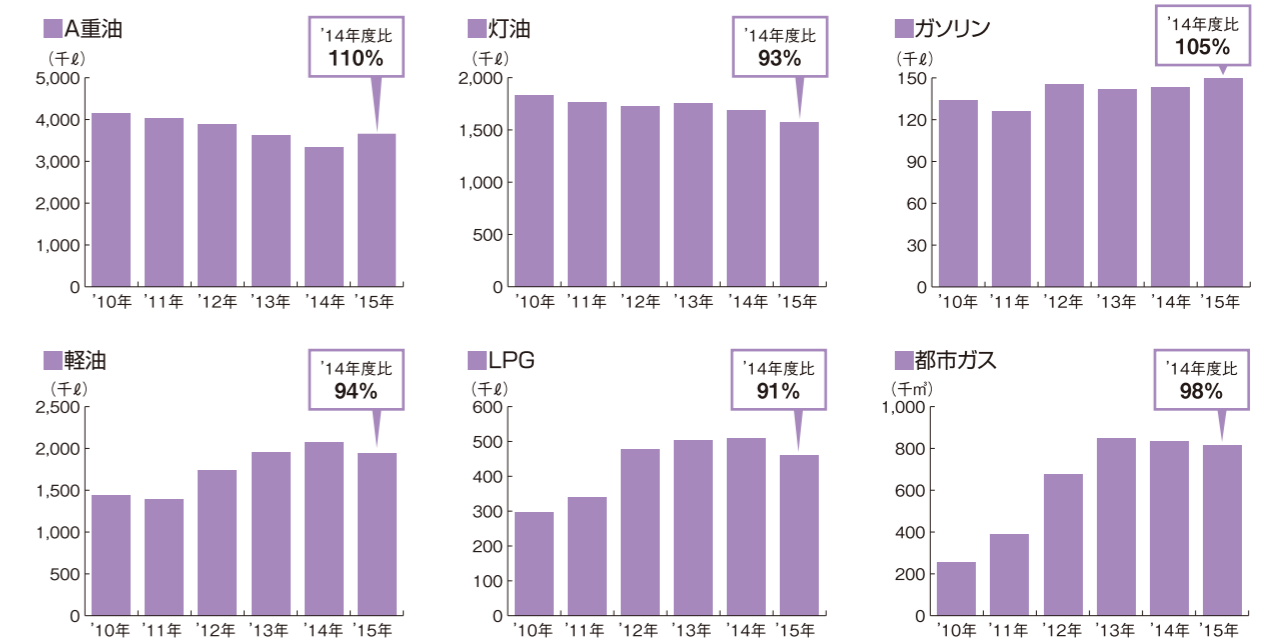
Point ▶ プライベート商品「なるほど商品」の増加により使用量が増加した分を、エコセンターを中心とする資源回収により補っています。

Point ▶ '14年度から「なるほど商品」の包材にカーボンフットプリントの表示を始めました。環境への関心と配慮を訴えています。室蘭工業大学と連携したカーボンフットプリントの計算商品数は160品を超えています。



エネルギー使用量(電気以外)

Point ▶ 環境負荷の少ないエネルギー源へと使用を順次切り替えています。

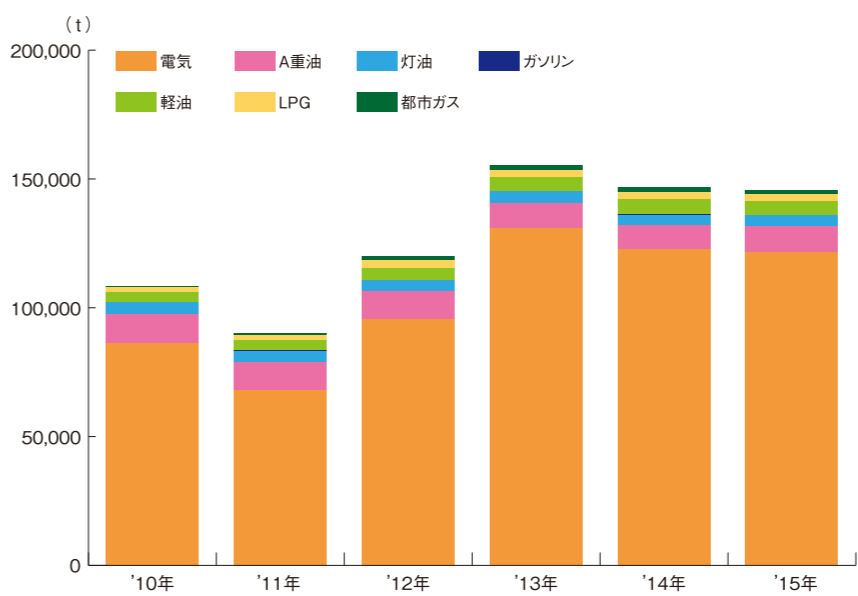


CO₂排出量

Point ▶ '14年度に基本照明の電気使用量を大幅に削減し、'15年度は80店舗のショーケースの清掃を実施し、省エネ化とクリンリネスの向上を図りました。



ショーケースを洗浄しエネルギー効率をアップ



エネルギー源	'15年	'14年度比
電気	121,801	99%
A重油	10,400	110%
灯油	3,917	93%
ガソリン	348	105%
軽油	5,099	94%
LPG	2,807	91%
都市ガス	1,716	98%
合計	146,088	99%

コープさっぽろは160万人近い組合員と共に、創立50周年を迎えました。

困難の時に支えられ事業を続けてこられたことに感謝し、これからも地域社会を守り、皆さまの期待に一層応える事業の継続を目指します。

基本情報

Table with 2 columns: Item (e.g., Name, Establishment Date, Headquarters, Members) and Description (e.g., Life Association Sapporo, 1965, Sapporo, 1,596,125 members).

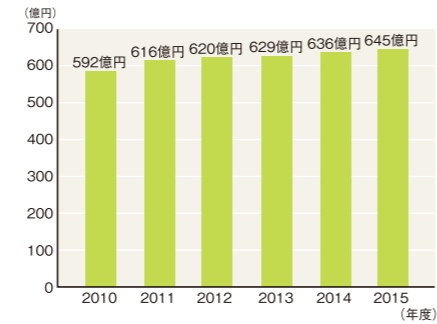
資料 出資金の状況

年度別出資金動態

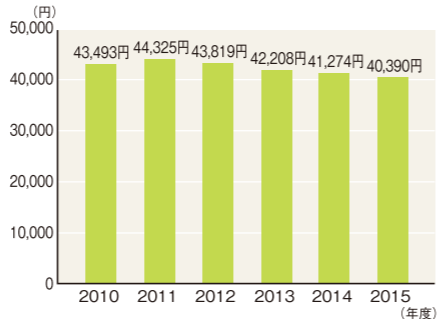
Table showing financial trends from 2010 to 2015 with columns for Amount, Previous Year Increase, and Growth Rate.

※上記出資金額には千円未満の預り金も含めて表示しています。定款上の出資金(1口千円単位)は64,005,902千円です。

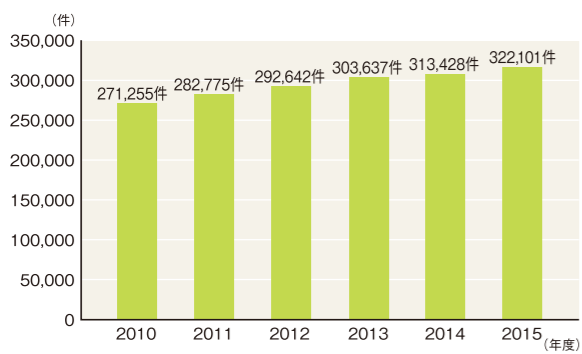
年度別出資金残高



1人当たりの平均出資金

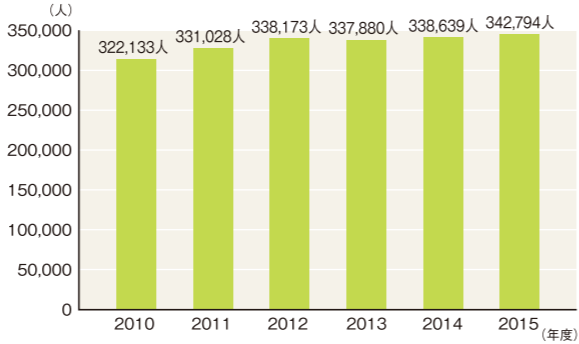


資料 宅配(トドック)の参加状況



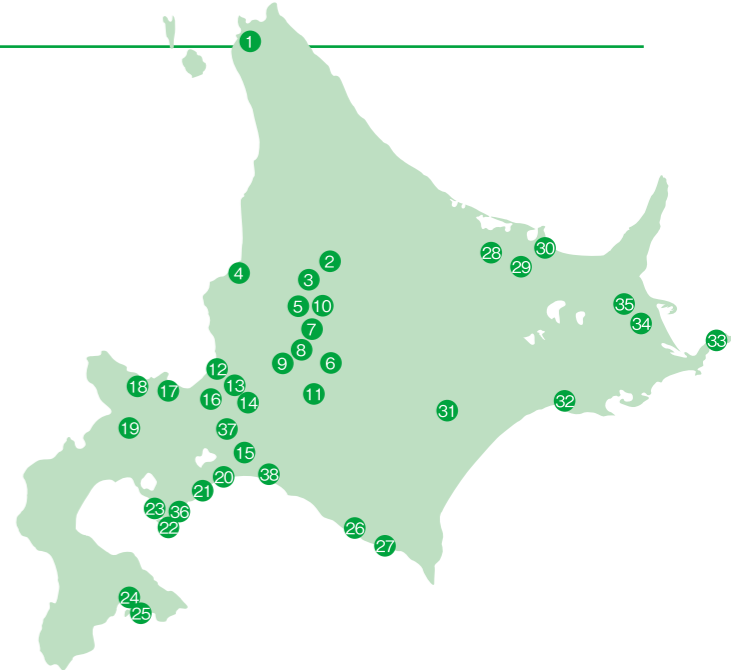
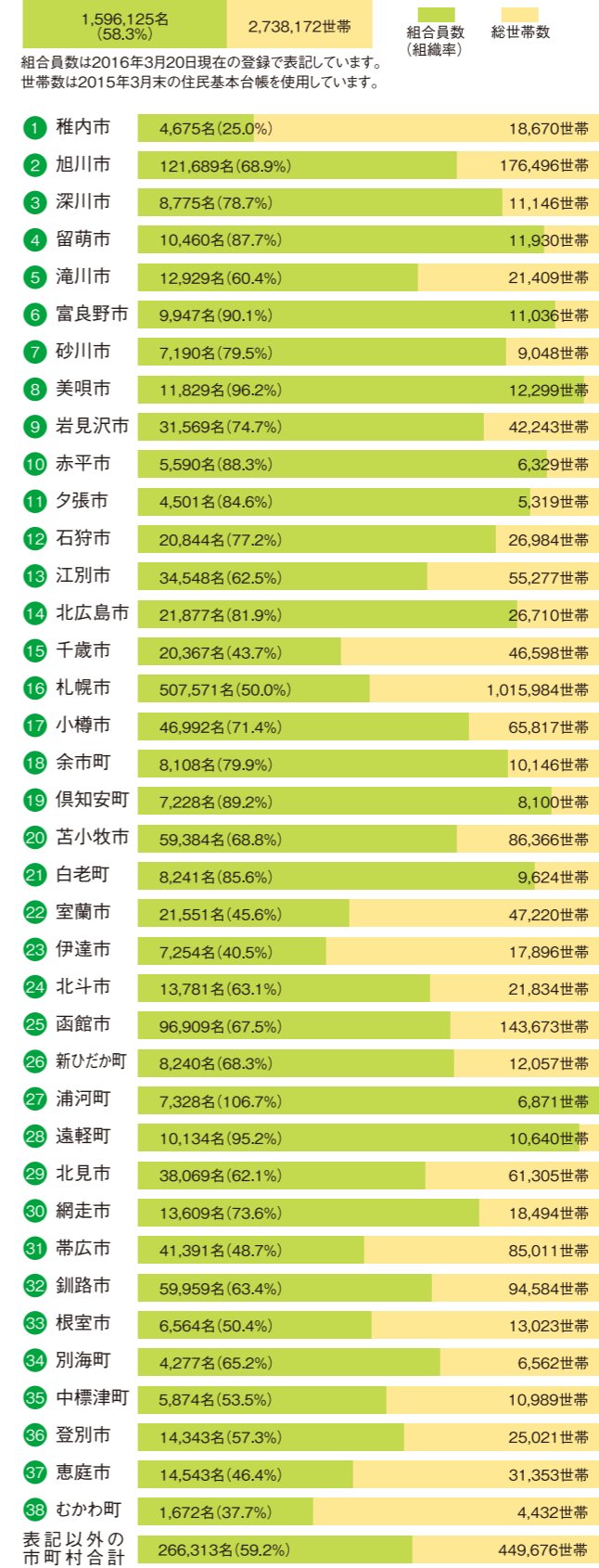
資料 CO-OP共済の状況

《たすけあい》共済の加入者数



組合員動態

都市別組合員組織率

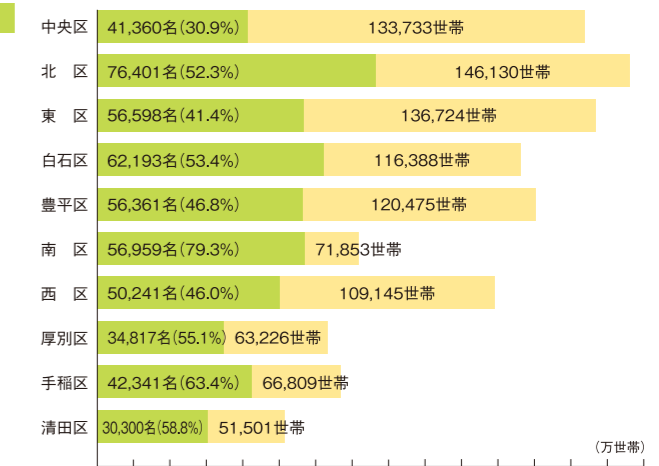


年度別組合員動態

Table showing membership trends from 2010 to 2015 with columns for Member Count, Previous Year Increase, and Growth Rate.

※2010年3月20日、住所不明・未利用者5,853名を法定脱退処理しました。
※2011年3月20日、住所不明・未利用者1,249名を法定脱退処理しました。
※2013年3月20日、住所不明・未利用者995名を法定脱退処理しました。
※2014年3月20日、住所不明・未利用者696名を法定脱退処理しました。
※2015年3月20日、住所不明・未利用者308名を法定脱退処理しました。
※2016年3月20日、住所不明・未利用者176名を法定脱退処理しました。

札幌市行政区別組合員組織率



※札幌市行政区を限定しない組合員さんが2名いらっしゃいます

事業所数と形態

本部

本部	1
地区本部	8(帯広、釧路、北見、苫小牧、室蘭、函館、旭川、札幌)

店舗

108店舗(2016年3月20日現在)28市18町					
---------------------------	--	--	--	--	--

札幌市	25店舗	留萌市	1店舗	白糠町	1店舗
江別市	2店舗	函館市	9店舗	中標津町	1店舗
北広島市	2店舗	北斗市	1店舗	北見市	3店舗
石狩市	1店舗	苫小牧市	5店舗	網走市	1店舗
千歳市	2店舗	伊達市	1店舗	遠軽町	2店舗
小樽市	3店舗	木古内町	1店舗	美幌町	1店舗
余市町	1店舗	幕別町	1店舗	帯広市	2店舗
倶知安町	1店舗	むかわ町	1店舗	室蘭市	2店舗
岩見沢市	2店舗	白老町	1店舗	赤平市	1店舗
美幌市	1店舗	新ひだか町	1店舗	別海町	1店舗
夕張市	1店舗	浦河町	2店舗	登別市	3店舗
旭川市	8店舗	えりも町	1店舗	恵庭市	1店舗
深川市	1店舗	様似町	1店舗	福島町	1店舗
砂川市	1店舗	釧路市	6店舗	羽幌町	1店舗
滝川市	1店舗	根室市	1店舗		
富良野市	1店舗	釧路町	1店舗		

コープ宅配システムドックセンター

31センター4デポ(2016年3月20日現在)

生産工場

江別生鮮加工センター
石狩食品工場
江別食品工場
配食白石工場
配食苫小牧工場
配食旭川工場
配食釧路工場

子会社

コープフーズ株式会社
シーズ協同不動産株式会社
シーズ協同開発株式会社
株式会社エネコープ
コープ協同保険株式会社
北海道はまなす食品株式会社
デュアルカナム株式会社
有限会社コープ協同サービス
有限会社ドリームファクトリー
株式会社大雪水資源保全センター
北海道ロジサービス株式会社
コープトレーディング株式会社
株式会社ドック電力

リサイクル施設

エコセンター

葬儀場

フリエホールつきさむ

'15年度の新工事

'15年7月	江別食品工場(江別市西野幌)
--------	----------------



▲江別食品工場(江別市西野幌)

組合外から寄せられた期待と意見



グラフィックデザイナー
学校法人東京工芸大学芸術学部 教授
一般社団法人ジャパンクリエイティブ 代表理事

廣村 正彰氏

コープさっぽろは昨年50周年を迎えました。私はこの50周年を単なる周年イベントではなく、未来のコープさっぽろを考える良いチャンスと捉えた「50周年実行委員会」に参加させていただきました。

北海道に暮らす人々とともに育ってきたコープさっぽろは、新たに北海道で生きることを誇りと喜びにすることをテーマに、これまでの50年の足跡を知ることから始めました。

まず、コープさっぽろの職員さんから思い出を募集しました。毎日の仕事を通じて体験した思い出がたくさんあると思ったからです。うれしかったこと、悲しかったこと、叱られたこと、勇気づけられたこと、すべての思い出はかけがえのない貴重な宝物です。結果的になんと2,100通もの思い出が届けられました。たくさんのお思い出は「思い出の小箱」と名付け、一冊の本にまとめることで、みなさんに読んでいただけるようになりました。このすべての思い出がコープさっぽろの今後の道しるべになるものです。

北海道の食料自給率は200%を超えています。豊かな自然に生まれた食物を家庭に届けるのはコープさっぽろの使命。すでに北海道のインフラとなっている「宅配ドック」は見守りへと進化しています。買い物難民を防ぐ移動販売車「おまかせ便カケル」。高齢者や食事の用意が大変という声に応じて夕食を提供する「配食サービス」など、北海道の未来がかかえる問

題を今から取り組んでいます。

また安全・安心な食を提供している農漁業者を応援する「コープさっぽろ農業賞」の歴代受賞者の畑で、一流シェフがランチを提供する「畑でレストラン」。北海道だから実現できる豊かで贅沢な企画を毎年6月から11月に実施しており、レシピブックも出版しました。

コープさっぽろはできる限り北海道産、製造にこだわったプライベートブランド「なるほど商品」を展開しています。なるほど!と納得していただけるようにデザインも工夫しています。一般の商品パッケージのようなキレイな写真や豪華な印刷は使わず、文字だけで内容の素晴らしさを表現しています。結果的にコスト削減になり、ナショナルブランドの商品との差別化になっています。

そして次の50年に実現したい「北海道で生きることを誇りと喜びにする」ためにコープさっぽろは「つなぐ」を合言葉に新しいロゴマークをつくりました。

使命は「安心」と「革新」。大切にすることは「わかちあう」「ささえあう」「おもいあう」「たすけあう」「まなびあう」「ふれあう」「たたえあう」です。

安心、安全で生き生きとした生命力を感じるコープグリーンは北海道のシンボルとして、これから全道に広がっていきます。